

「日本英語英文学会」25周年、おめでとうございます。

鈴木 繁 幸

「日本英語英文学会」は、1990年度に「八王子英文学研究会」として世に産声を上げました。同時に、『八王子英文学論叢』の名で研究紀要を発刊し、世の研究者の方々の耳目を集める努力をされて今日に至っております。私は、現常任理事松倉信幸先生にお声掛けを頂き、『八王子英文学論叢』第3号から発表等の機会を頂戴致しております。大学院修了後、論文発表の機会を持たなかった私に先生はお声を掛けてくださり、大学での職を得るきっかけを作って下さりました。

「八王子英文学研究会」は、21世紀を迎える2001年に「日本英語英文学会」と名を新たにし、発行紀要は『日本英語英文学』となり今日に至っております。四半世紀を経、各会員のご尽力で会員数は発足時の何倍にも増えましたが、その基本理念である「開かれた学会」の姿勢には何ら変化もないと確信いたしております。年次総会を一般公開しているのもその表れと考えます。そして、進取の気性に富んだ会員の投稿論文は毎年大いに示唆に富んでおり、その存在価値を世に力強く問うものばかりです。

私は、僭越ながら、2001年に学会となった「日本英語英文学会」の最初の会長を、2001年度から2006年度まで務めさせていただきました。ただ、会長と申しましても、各先生方のお力添えでやっておりました、「おんぶにだっこ」の会長でしたので、当時を振り返り、各先生方の、学会へのご尽力に感謝申し上げます。

会員数も少なかった当時は、学会発表を行うために大学の教室は大きすぎる程で、ホテルなどの一部屋をお借りし行っただけでした。発表後の懇親会もそのままそこで行われたこともございます。そのような紆余曲折を経て今日の姿を迎えた学会ですが、ご投稿やご発表を頂いた先生方は現在各方面で広く活躍されています。

次の25周年、そしてその後も「日本英語英文学会」が、「大学人」の中心的学会となるよう祈念し、「日本英語英文学会」25周年記念の言葉とさせていただきます。

(常任理事；初代会長)